

アイヌ衣服文様布量について（第4報）

昭和女大附高 ○吉本智子 昭和女大 村井不二子

〔目的〕アイヌ衣服には、本州では見られない様々な独特の文様がある。その文様を構成している布、文様布はアイヌの人達にとって、交易によってしか手に入らないものであったと言われる。その限られた布をいかに工夫して使用したかという点から、文様と文様布量の関連性、布の貴重性、衣服布と文様布のかかわり、また今回は色裂置文衣と第2報、第3報で報告したアツシ、黒裂置文衣との比較により、文様布の種類と文様布量の関係について考察する。

〔方法〕実際に文様布に使われている布の量（文様布量）の計測を行い、衣服種類別文様布量、素材別文様布量、衣服布量に対する文様布量の割合を求める。またそれを逆に、計測された布量から、その文様を再現してみることにより、布の貴重性、文様と布量のかかわり、また文様布の種類と文様布量の関連性について考察を進める。

〔結果〕今回は色裂置文衣10点を対象に行った。色裂置文衣は、色、種類ともに種々の布をテープ状にしたものを切伏していく切伏文様である。計測された布量から文様を再現した点においては、実際の布量とは多少の差異が見られ、アツシ、黒裂置文衣布と比べ、色裂置文衣時の方が差異が多く見られた。これは文様布の種類が綿だけでなく、絹、毛などの材質が使われており、また同じ材質の綿でも織り方や厚さなどが異なっていることが原因であると考えられる。文様布量に対して、色裂置文衣は、視覚的文様領域（文様間の空間を含む文様全体の範囲）が大きいものが多かった。これは布を細いテープ状にして用いることによって少量の布でも衣服全体に文様を施すことができ、貴重な布を工夫して使っていたことがうかがえた。